

項目	判断項目
食 事	2…一度に口に詰め込まないよう、飲み込みや嚙む行為を指導している。窒息や危険な行動がないか等、見守りや進捗状況等で声掛けが必要。 3…食材を小さくする等の配慮や時折大人が口に運ぶ程度の支援があれば食べることができる。スプーンやフォークを使えば食べることができる。 4…全面的(常時)に支援が必要。行為の目的や内容を理解していない。軟食などの配慮や栄養補助ミルクの摂取が必要。経管栄養や中心静脈栄養を行っている。手づかみや食べこぼしが多くみられる。個別の環境設定・対応が必要 介助の拒否や食器・食材を投げる行為がある 2または3…特別なコップや食器、道具を使って食べることがサポートしている。過度な食物アレルギーなど配慮が必要。感覚過敏(温度や食感、食器のこだわり等)により配慮が必要。著しい偏食(水が飲めない、食べられるものが極端に少ないなど)
排 せ つ	2…見守りや声かけがあればトイレに移動して排泄することができる。トレーニングのために定時で排泄チェックをしている。促しがなければ自分からトイレに行くことが難しい。 3…決まった場所でしか排泄をしたがらない。立ち便器、和式便器など形状によって排せつが困難。誘導することで排泄できるが、拭き取りには支援が必要。「トイレ」等の単語やジェスチャーで意思表示もしくは支援を求めることができる。 4…頻尿、尿意などを自分から伝えられない。オムツや尿とりパッドなどを使用している。都度清拭の支援が必要。便をいじったり、トイレ以外の場所ではない所で行う。失敗が多く対応が必要(1週間に1回以上。オムツは使用していない場合も含む)。導尿、ストーマ、尿カテーテルなどを使用。洗腸や摘便が必要。月経の対応に手伝いが必要。譲れないルールがある。
入 浴	2…見守りや声かけがあれば入浴することができる。自分でできるが、準備や入浴から上がるまでに時間がかかる。 3…体や髪を洗う、拭く行為が不十分のため支援者が部分的にやり直している。1人で入浴させることはできないので配慮が必要。感覚過敏があり、洗髪や洗顔、洗身に拒否があるため支援が必要。石鹸やシャンプー、タオルなどにこだわりがあり、配慮が必要。 4…体や髪を洗う、拭く行為が不十分のため支援者が対象者自身の行った部分を含めて全面的にやり直している。医療上必要、又はその他の事情により配慮しながら清拭が必要。首の座りが悪かったり、体幹が弱く抱っこで入浴。洗身などに強い拒否から泣く、シャワーを怖がるなどあるため支援が必要。シャワーベットの器具を使用。目的や内容を理解していない。全面的に支援が必要
移 動	1…1人で歩くことができる。補装具を使用し、身体に合っていて自分で歩行できる。 2…安定性やバランスの面で不安があり、見守りが必要。補装具を使用し、身体の使い方にぎこちなさがある状態や慣れていない場合。 3…安定性やバランスの面で不安があり、時折身体を支える等の支援が必要。補装具を使用しているが、転倒が度々見られる。 4…常時手をつなぎ又は抱っこ等で移動。首の座りが悪かったり、体幹が弱く抱っこに配慮が必要。常時バギーや車イスなどが必要。道路への飛び出し、障害物の回避ができないなどで見守りが必要。装具などを装着しており、移動の際に配慮が必要。 2または3…階段など条件によって介助が必要。歩行速度が他児と異なるため個別の対応が必要。感覚過敏があり、外履きや靴下などに配慮が必要。公共交通機関はパニックになりやすく利用できない。道順などにこだわりがある。途中で転倒したり、座り込んだり、寝転んだりするため対応が必要。
衣 類 の 着 脱	1…衣類の前後、靴の左右を間違えずに着用することができる。汚れたり濡れたときに着替えることができる。場や気候に合わせた衣類を選択できる。 2…衣類の前後、靴の左右を間違え、ボタンをかけ間違えることがあり、声掛けや見守りが必要。場や気候に合わせた衣類を選択には、確認等が必要。 3…ボタンやファスナー等にサポートが必要。衣類の前後、靴の左右が分かるように、目印をつけたり、着やすいように衣類を置いたりする支援が必要。 4…着脱には概ね支援が必要。感覚の過敏さから衣類や靴を履くことを嫌がったり、素材が限定される。感覚の鈍感さから衣類や靴が濡れたり汚れたりしても、着替えようとしなない。
聞 こ え	1…聴力に問題がない。 2…補聴器などの補助装具を使用することで、一定の聴力を保つことができる。 3…聴力になにかしらの問題がある。聴覚過敏で、イヤーマフ等の補助装具を装用することが必要。 4…補助装具などを使用しても、機能的に音や声を聞き取ることが難しい。
口 腔 機 能	1…前歯で噛みとり、奥歯でかみつぶすことができる。調理方法等に特別な配慮が必要ない。 2…食材や調理方法に工夫が必要。舌や歯茎で食事を押しつぶして食べることができる。 3…介助があれば口を開閉し、飲み込むことができる。丸呑みをしてしまう。口蓋裂などへの配慮が必要。 4…口蓋裂・不正咬合などがある。胃ろうなどの経管栄養を行っている。
行 異 動 食	食べられないもの(石、おもちゃ、腐った食べ物、落ちて明らかに汚れている食べ物など)を口に入れたり、飲み込んだりする。異食行動を防ぐため、異食しそうなものを周囲に置かないなど配慮が必要 服の袖を噛んだり、紐を口に入れることがある。
反 過 す う 食 等	過食(異常な量を食べる)、拒食(環境の変化によって食べられなくなる)がある。口に入れたものを飲み込めず、口に溜めたままにする。際限なく水を飲み続ける。極度な偏食(特定の物だけしか食べない)で、食事面で配慮している。嘔吐を繰り返す。アレルギー食や宗教食の対応が必要 嚙む行為と飲み込む行為の課題があり配慮が必要(きざみ食など)
座 る	1…自分で座り立ち上がることができる。座った状態で手を使って遊ぶことができる。 2…座る姿勢をセットすることが必要。座った姿勢を保つには、手で支えることが必要(自分を支える)。 3…座っている際、体の一部を大人に支えてもらうことが必要。身体を支えるための工夫があれば座っていられる。 4…首がすわっていない。後ろにもたれた姿勢であれば座ることができる。
目 と 足 の 協 応 の	1…ケンケンが3回以上できる 2…足の着く位置を目で見て確認していなくても、階段を昇ること、降りることの両方がスムーズにできる 3…両足同時にジャンプし、転倒せずに着地できる 4…階段を昇る際に、交互に足を出すことが難しい 5…階段昇降・ジャンプ・ケンケンのどの動作も難しい
避 危 行 動 回 避	1…自分で危険な物や場面を理解して回避することができる 3…声かけや視覚的な手がかり等で危険を伝えることで、危険を回避することができる 4…危険を回避するためには、支援者の介入が必要である
奇 大 声 声	他者が迷惑となるような大声や奇声を、時間帯と場所を選ばずに出す。物などを使って周囲に不快な音を立てる。
行 多 動 止 止	特定の物や人(対象が明確でない場合も含む)に興味関心が強く、思うとおりにならないと多動になったり、動かなくなってしまう。絶えず話している周囲と協調できず絶えず動いてしまう、またはマイペースに周囲と無関係に動いてしまう。常時走り回る。1か箇所に留まることが難しい。体の一部を常時動かしている。短時間は指示に応じるが、すぐ同じ行動を繰り返してしまう。バランス感覚が悪いため転びやすい、怪我をしやすい。本人の意思とは関係なく次の行動に移ることが難しい
注 意 力	1…気が散りやすい場面や、集中できない場面等、特に日常生活で気になることはない(こども本人も、周囲も困り感がほとんどない) 3…目につく所に気になるもの(玩具、テレビ、窓など)がある場合や初めての場所である等、状況によって集中できないことがある。 4…集中することが難しいことや、注意が逸れやすいことがよくある。
な 不 行 安 定 動 定	突然の予定変更や慣れている支援者が変わるなど、状況が変わるとパニックになったり、次の行動ができなくなる。不安などから衝動的な行動がある。特定の物・人へ固執することで安定を図り、それが無くなったり、変更してしまうと不安定になってしまう。
予 測 理 解	1…見通しを立てて自発的に行動することができる。 2…わからないときもあるが、次の行動を声かけがあれば行動することができる。 3…声かけだけでは難しいが、次の行動につながる見本や写真などの視覚的な手がかりがあれば行動することができる。 4…声かけや視覚的な手がかりのみでは不十分であり、その他の工夫やサポートが必要(音やアラーム、身体に触れて教える等)。
急 対 応 変 化	1…急な予定変更を理解し、自発的に対応することができる。 2…対応が難しい場面もあるが、個別に次の行動を伝えることで、対応することができる。 3…声かけだけでは対応が難しいが、次の行動につながる見本や写真などの視覚的な手がかりがあれば、それを見て対応することができる。 4…声かけや視覚的な情報だけでは対応が難しく、他の工夫やサポートが必要(例えばメロディやアラーム、体に触れて教えること等)。

行自 為傷	自分の頭を叩いたり、壁に打ちつける。自分をつねる。傷口をほじったりして治らない。衣服を破ることがある。
る傷他 行つ人 為けを	他人を叩く、髪を引っ張る、押すなどがある。物を壊したり、投げたりする。暴言(バカ、死ね等)、相手を侮辱したり、いじめたりする行為がある。他人へ過剰な注意や干渉をしてトラブルを起こす場合がある。
そ の 他	1…感情が抑えられなくなることはほばない／あったとしても日常生活に大きな支障はない。 3…乱暴な言動等があっても、特定の場所へ移動することや物を使用することにより長期化はしない、又は気持ちを鎮めることができる。 4…いろいろ工夫しても乱暴な言動の収束にすぐは結び付かない、又は一定の時間をかけて落ち着くのを待つしかない
な不 行適 為切	見知らぬ人に過度に親しげな振る舞い(抱きつく、膝の上に座るなど)をする。他人に急に接近したり、のぞき込んだり、体に触ったりする。うそをつく。断りもなく人の物を持ってきてしまう。過度に人や物の臭いを嗅ぐ。感情のコントロールが困難で、些細なことでかんしゃくを起こしたり、周囲の人とトラブルになりやすい。不適切な場所で放便・放尿がある。SNSなどで不適切な内容を発信したり、見知らぬ誰かと通信したりする。意思が伝えられないために、友達を叩く、物を投げるなどの行為で表現する
な突 行発 動的	気になるものがあると、大人から勝手に離れて、迷子になることがある(常に見守りや防止するための環境設定が必要)。手にしたものを突発的に投げる。危険の認識が弱く、突発的な道路への飛び出し、熱いものなど危険なものに手を出す、高い所から飛び降りるなどがある。
シニコ ョケミ ーユ	3…絵カードなどでコミュニケーションできる。手話や筆談、点字等を用いる。特定の人(保護者など)としかコミュニケーションがとれない。 慣れない場所や人前では表情が硬く話すことが難しい。吃音がある。 4…会話のやりとりは、一方的に話しかけたり、独り言のように話したりするが、自分の意思の伝達ではない。オウム返しで返答。行動でのみ自分の意思を伝えられる(他者の手を引いておもちゃを取らせるなど)。パターン化された内容のみ、自分の意思を伝えられる(ご飯と言う、おもちゃのみ指さす等)
人 対 人	1…人との1対1の関係が成立している。人に対する期待感、共感性がある。 2…人との1対1の関係が成立している(経験していた)が、一方的な場面であることが多い、又は発信力が弱い。人に対する期待感、共感性が弱い。 3…声目が合うことはあるが、声かけや感情を共有する場面ではないことが多い。 4…ほとんど目が合わない
意 思 表 出 の	1…主に言葉で伝えることができる。 2…主に動作や指差しなどで伝えることができる(行きたいところに大人の手を引っ張っていくことやちょうだいなどの動作等) 3…意思を伝えようとはするが、方法が適切ではない。泣いたり、怒ったり、奇声をあげるなど) 4…意思を伝える気持ちがみられない。
理 解 の	3…簡単な説明を聞いて返事をするが、行動が伴わないことがある。同時に2つ以上のことを指示されると行動が困難。 絵カードなどを用意したり、ジェスチャーで補足すると理解が促される。 4…簡単な説明をしても返事などがなく、理解できていると考えられない、又は理解しているのか判断できない。 パターン化された特定の行為(座る、食べる等)のみ理解できる。
緊 張 不 適 集 の 応 不 安	一定期間、学校や事業所などへ行けなくなるなど、家に引きこもっている。不安が高まるとその場にいらなくなる、もしくは動けなくなってしまう。短時間もしくは全く集団参加できず個別に対応が必要。慣れない場所に行くとき動けなくなり、会話ができなくなる。爪かみ、指しゃぶり、緘黙がある。チック(目をパチパチさせたり、「オッ」など意図しないで声が出てしまうなど)など身体症状にあらわれる。ファンタジーの世界に入ってしまった、やりとりが成立しない。感覚過敏(音が過剰に聞こえる、光や色を過剰に感じるなど)により配慮が必要。 【一定期間にわたって引きこもり状態である場合は④と記入してください】
関 人 わ と り の	1…適度な距離感を保ちながら、自分から相手にやりとりを求めることや、相手からの働きかけに応えることができる。 2…特定の人であれば、関わりを持つことができる(パターンの関わり方も含む)。 3…自分から相手に働きかけることはほとんどないが、相手から関わられることに対しては、嫌がることはなく、反応することもある。 4…一方的に、自分の思いだけを伝えようとすることや、相手が嫌がっても過剰に近づいてしまう。相手が関わってきても、拒否を示すことや、無関心でほとんど反応しない
集 参 団 加 へ の	1…全体への指示があれば、活動の内容、やり方、ルールを理解して、最初から最後まで参加することができる。 2…興味関心がある活動内容であれば、参加することができる。最初から最後までは参加できなくても、部分的には参加することができる。 3…本人が理解できる手段で、内容の説明等があれば、その場にいることができる。 4…支援があっても、集団活動には参加することが難しい。強い拒否感を示す等、その場にいることが難しい。
ト ラ ブ ル 頻 度 ブ ル	1…自分の意見を伝え、相手の意見を聞いて、友達と一緒に解決することができる。相手の気持ちを察して、相手に合わせるすることができる(トラブルなく過ごすことができる) 2…あらかじめ、本人が理解できる手段でそこでの過ごし方を伝えることや、双方の意見を聞く、解決方法を助言する等の支援があれば、解決することができる。 3…あらかじめ、本人が理解できる手段でそこでの過ごし方を伝えることや、双方の意見を聞く、解決方法を助言する等の支援があっても、解決することができない場面がある。 4…相手の意見を聞き入れることが難しく、自己主張を続けることが多い。トラブルが頻繁に起きる。
か て ん ん	3…服薬していないが経過観察を行っている 4…常に支援が必要。てんかんの診断あり(薬で発作を予防も含む)
つ そ 状 う 態 う	睡眠が安定しない(夜中に何度も目を覚ます、昼夜逆転など)、睡眠障害に関する診断や治療をしている。前後の脈絡なく急に泣いたり、笑ったりする。自殺企図がある。日常の活動への興味や意欲が感じられない。気分安定剤などの薬を使用している。気分の高揚、社交性の増大、多動・多弁、過度な興奮状態、怒りやすい。
反 復 的 行 動	物や行為にこだわり、特定の行為を反復する(言葉やTVのフレーズを繰り返し話す、気になるものがあるときや場所を選ばず寄って行ってしまふなど)。スケジュールや物の置く位置などが変わると混乱する。戸の開閉を過度に気にし、きちんと閉まっていなくてパニックを起こすため配慮が必要。気になることを何度も聞き返す。回ものやキラキラするものに集中して動けなくなるなどがある。紐などを常に持ち、常に動かしている。上半身を前後に揺らす、ジャンプを繰り返すなどがあり、時と場所に応じて配慮が必要。決まった行為(服を着る順番が決まっているなど)を行わないと次の行動にうつれない。
書 読 き み	3…一部理解はできるが、見守りや口頭で補足の説明が必要。書くことはできないが、パソコン等を使用すればできる。 4…文字では理解できず絵カードなどで理解できる。文字に興味を示さない。学習障害の診断がある。外国語を使うため、翻訳が必要。
言 葉 遣 い	1…屋内や屋外での声の大きさ、親しい間柄であっても敬語を使用することができるなど、正しい言葉遣いをする事ができる。場所や相手によって言葉使いを使い分けて表現することができる。 2…場所に合わない声の大きさを話すこと、又は声が小さくて聞き取り難いことがある。声量の調整は難しいが、場所や相手によって言葉を使い分けて表現することができる。場所や相手によって言葉遣いを分けること等を理解していると思われるが、気分によって難しいことがある。 3…敬語を使うことはできないが、態度で表現することができる。乱暴な言葉使いが多い。一方的な発言が目立つ。相手から気持ちを確かめてもらうことや代弁してもらうなど配慮がなければ表現することが難しい。自分の気持ちを伝える際に支援(環境調整)が必要。 4…支援があっても、相手や場所に応じた言葉遣いや態度で表現することが難しい。
や り 取 り	1…言葉どおりに捉えず、やり取りをすることができる。トラブルにならないようなやり取りができる。 2…口頭の質問に対して「はい」、「いいえ」などの返答はできる。聞かれたことには答えることができる。視覚的な提示や細かな質問、選択肢があるなどの配慮が必要 3…一方的な主張のみ繰り返してしまうことが多い。トラブルになるようなやりとりが多い。他者に関心がない
集 団 適 応 力	1…同年齢の集団に所属し、活動に参加することができる。集団の暗黙のルールや雰囲気気に気づき、自ら集団の中で過ごすことができる。 2…集団の暗黙のルールや雰囲気気に気づきにくい、支援者が言葉かけを行うことで気づき、理解することができる。所属する集団の主たる支援者(担任・担当)が対象児の特性を理解し配慮することで集団へ参加することができる。 3…集団の暗黙のルールや雰囲気気に気づくのが難しく、支援者の直接的な支援が必要。所属する集団の構成員(児童)に対象となることにもついて理解してもらうことが必要。所属する集団の規模(小グループ化)や構成員(年下のグループにする)等の配慮が必要。 4…集団の中で過ごすことから練習が必要。集団の流れに入るより、個人単位の支援が優先され、日常生活自体に特別な支援が必要。